海洋調査事業を拡大

ホバリング型AUV武器に

いであは海洋調査分野で事業拡大を狙う。海洋資源の開発のほか、遠隔離島で深海の海底環境や生態系調査などを展開。自社開発のホバリング型AUV（自律型無人潜水機）「YOUZAN」のニーズが高まっており、新たな開発技術を付加した業務も複数受注しているという。洋上風力発電事業が本格化する中で、海を得意とする強みを生かして海洋調査や環境影響評価（環境アセス）、漁業影響調査などの受注も獲得していく。

1日に東京都内で開いた2023年12月期の決算説明会で、田畑彰久社長が明らかにした。田畑社長は「深海調査や外洋調査に注力したい。洋上風力発電事業を考えている」と述べた。

民間市場への展開も強化する。気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）や自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）対応へのニーズが高まっており、「これまでなかった大手企業を開拓している」と述べた。環境分野の経営課題へのコンサルティングサービスを本格化し、持続可能な経営を包括的に支援する。

24年12月期までを対象とする3カ年中期計画にも触れ「目標をしっかり達成したい」とした上で、「3月の総会後に本格的にプロジェクトチームを立ち上げて新中期計画を検討する」との方針を示した。

いであ